



0.5mmの標的の中心を狙うというの、10m先に置いた5円玉の穴の中心を撃ち抜くのと同じイメージです。

水田光夏選手

まちスポ

町田のアスリートを応援!

パラ射撃 水田光夏選手

射撃ってどんな競技?

標的のど真ん中を撃つと何点?

10.9点です。そこから0.25mmずれるごとに0.1点ずつ減点されます。

使うのは実弾?

鉛弾です。空気銃は圧縮空気、火薬銃は火薬を用いて弾を飛ばします。

標的までの距離は?

ライフルは10m・50m、ピストルは10m・25m・50mと種目により異なります。

私はライフルの10mです。

競技の難しさは?

撃つ際に微動だにしない安定姿勢を保つこと、そして、それを何度も繰り返さなければならないことです。



2019年7月、クロアチアで開催されたワールドカップに出場した水田選手

狙うは0.5mmの真ん中

標的の中心の円は実に直径0.5mmで、呼吸や心臓の鼓動すらも結果を左右する射撃競技。この強靭なメンタルが要求されるスポーツで、東京パラリンピックの出場権を獲得した町田市出身のアスリートがいる。白寿生科学研究所に所属する水田光夏選手だ。

難病のシャルコー・マリー・トゥース病と診断されたのは、中学2年の春。手足の筋力低下などを伴う神経疾患で、やがて車いす生活となり、ペンを握ることも難しくなっていた。

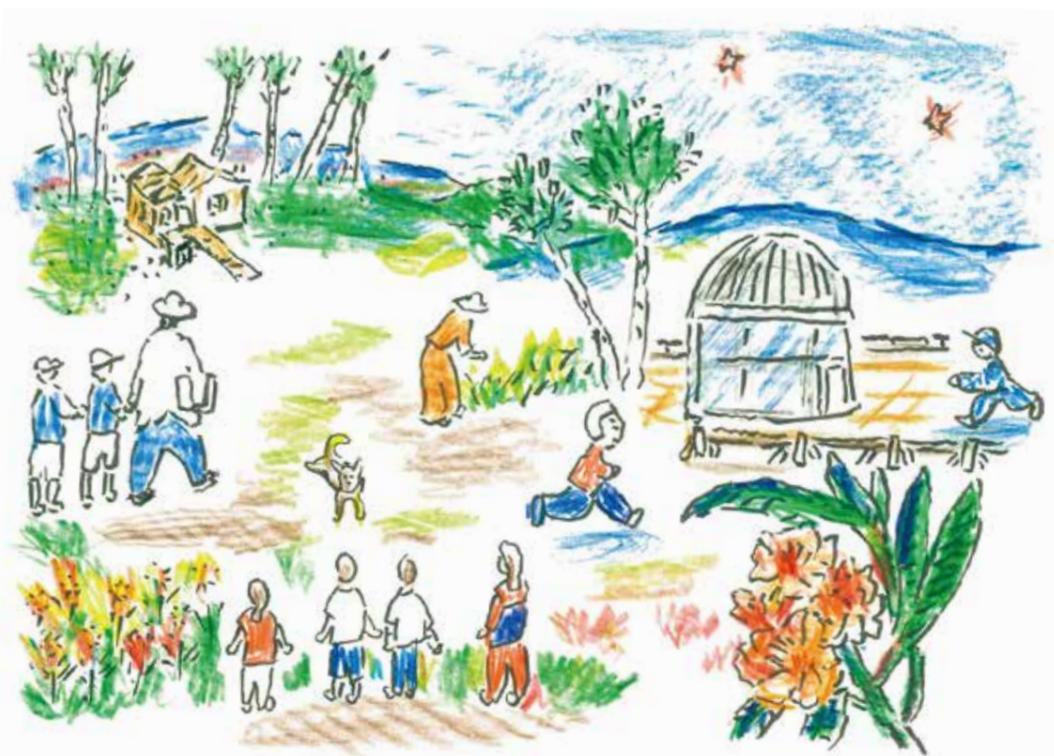
そんな折、母の勧めで参加したパラリンピアン集會。初めて射撃を知り、未知の世界に興味を抱いて一歩を踏み出した。はじめこそ「遊びの感覚だった」と明かすが、19歳で本格的に始めると才能は開花。国内外で活躍し、パラリンピック出場内定を勝ち取った。

専門は10m先の標的を狙い、60分間で60発撃つ種目。試合直前まで好きなKポップを聴き、平常心を保つ。余計な力が入れば銃口がぶれることも、「自分と向き合える時間」と楽しみに変えてしまいうた精神の持ち主だ。

パラリンピックでの目標は「自己ベストの更新」。競技人口が少ない女性や若者に射撃の魅力をもっと伝えるために、全集中で試合に挑む。

町田絵日記

沢野ひとし



第4回 町田市自然休暇村に行こう

長野県川上村の町田市自然休暇村に、我が家は年に2〜3回、多い時は5〜6回と頻りに出かけている。

標高1500mの高原の凜とした空気、抜けるような青い空はいつも新鮮な気持ちに生き返らせてくれる。孫4人と一族郎党10名、なにかとこの数年は迷惑をかけてきた。

この施設の良さは、なによりもゆったりとした部屋。広いロビー、岩に囲まれた大浴場、そして最高の持て成しの四季の料理。とまどいを感じるほど安い宿泊料金。

これまでホテルやペンションに泊まってきたが、自然休暇村が一番落ち着き和めるのであった。こうした公共宿泊施設は、時に規則に頑固で融通が利かない所がある。だが、働いている人がみんな親切で温かい接し方をしてくれる。不満な点や、一度も窮屈に思ったことはない。

星が綺麗に見える土地だからか、ドームの天体観測棟があり、小学生の孫はここで大型望遠鏡で覗いた星に興奮していた。あるいは夏のイワナ掴み、水晶探し、幻の滝めぐり、宿の裏にいる川上犬への挨拶と、子どもたちも飽きることはない。車で20分ほど走ると小川山。廻り

目平のキャンプ場に着く。ここは日本一というほどのロケーション。焚火が可能で、岩登りの初心者から上級者向けの難度の高い岩場までとクライミング天国である。私にとつて40年近く、呆れるほど通ったキャンプ場である。

元気な頃はロープを肩に一日中岩にしがみ付き、手に力が入り過ぎて夕食の時に箸が持てないほどであった。やがて齢をかさねてくると、木漏れ日の下で音楽や読書にと楽しみ方も穏やかになってきた。

思い出すと、このキャンプ場で共に過ごした山仲間何人かはすでに鬼籍に入り、見上げる青空が寂しく思える時がたまある。

車がなくなると、小海線の信濃川上駅で下車すれば送迎バスが往復してくれるのも助かる。

いつも喧嘩が絶えない夫婦だが、自然休暇村に行くとき争いごとめっきり少なくなり、幸せな日々が流れていく。

早いもので孫たちがもうすぐ中学生になる。そうなると、老夫婦と一緒に来ることも僅かになってくる。やがて彼らが大人になっても、川上村の青い空と、町田市自然休暇村はいつまでも絶対残してほしい。



■文・イラスト：沢野ひとし（さわのひとし）

町田市在住。著書に「中国銀河鉄道の旅」「人生のことはすべて山に学んだ」「ジジイの片づけ」などがある。第22回講談社出版文化賞さしえ賞受賞。新刊に思い出の旅をつづった「真夏の刺身弁当」（産業編集センター／3月15日発売）。